

2009年度

科目名	マスコミ論		
担当教員	小川 丈治		
配当	教育3	コード	14120
開期	通年	講時	月曜日4限
単位数	4		
授業テーマ	映像の見方・描き方〔前期〕／ 映像作品の可能性〔後期〕		
目的と概要	「マスコミ論」は新聞、雑誌、放送、映画などのメディア(Media=媒体)を通じて、大量の情報を不特定多数の人々に伝える行為(Mass Communication=マスコミュニケーション、略してマスコミ)を論じる学問です。この情報を表現する手段は、以前は言語が主でしたが、最近では映像に比重がかかっています。学校では言語(日本語、外国語)の勉強はしてきましたが、映像の見方や描き方の勉強はなおざりです。これではいけません。講義では映像に焦点を当て、映像教材を多用して説明します。		
成績評価法	採点は学年末のレポート内容70点、平常点30点で計算します。		
テキスト	指定しません。毎回プリントを配付します。		
参考書	講義のたびに紹介します。		
履修に当たっての注意・助言			
講義計画			
〔前期〕序・講師の自画像(VIDEO) 第13講 米国の政治とTV映像 (講師は元 TV ディレクター) 第14講 映像との付き合い方 <映像の歴史> 第1講 現代の代表的マスコミ 「新聞と放送」概観 [後期]<映像作品の制作現場> 第1講 アメリカの映画制作 第2講 映像の時代の意味 第2講 コマーシャルの制作現場 第3講 歴史—絵画から写真へ <虚構としての映画の可能性> 第3講 アニメの歴史概観 第4講 歴史—動く映像の発明 第4講 アニメ作品を観る 第5講 歴史—初期の映画 第5講 「もののけ姫」 <映像表現の特徴と技法> 第6講 アニメの制作現場 第6講 映像認知の仕組み 第7講 (ドキュメント①) 第7講 脳の中の映像と言語 第8講 アニメの制作現場 第8講 映像と言語の比較 第9講 (ドキュメント②) 第9講 映像表現法①(撮影) 第10講 CG表現の歴史 第11講 (ドキュメント) 第10講 映像表現法②(編集) 第12講 CG表現の可能性① 第13講 「ジュラシックパーク」 <映像表現の害と利点> 第11講 ナチスと映画 第14講 CG表現の可能性② 第15講 「アイ,ロボット」 第12講 嘘つき映像の歴史			